

日本学術会議 国際対応分科会 自己点検報告書

国際対応分科会(小委員会)名 IGU分科会 更新日 2012/9/6
(2009/05/01の形式)

国際学術団体に関する事項

国際学術団体名

(和文) 国際地理学連合
(欧文) International Geographical Union
(略称) IGU

日本学術会議加入年(西暦) 1949 年

運営組織の名称・役員の構成等

運営組織の名称(欧文) Executive Committee

	会長	会長代理/次期会長	副会長	事務局長
(氏名)	Ronald Abler		Yukio Himiyama 他7	Mike Meadows
(国)	米国		日本	南アフリカ

役員選出方法の概要(120文字程度で記載)

IGUに代表権を持つ国の国内委員会から推薦を受けた候補の中から、総会における各国代表による投票で選出される。

加入国・地域の数 90 ケ国

主要加入国(10ヶ国程度を列挙)

米国、英国、日本、イタリア、ドイツ、フランス、ロシア、中国、インド、韓国、ポーランド

国際学術団体のホームページURL <http://www.igu-net.org/>

国際学術団体の年間運営経費 US\$176,422
日本の分担予定額[事務局で記入] 1,013千円(2012年度)

国際学術団体の活動状況

総会・学術研究集会の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催地	参加者数	日本からの 参加者数	学術会議共催/ 協賛の有無
2012年	国際地理学会議 (IGC)	ドイツ国ケルン市	3000	120	無
2011年	国際地理学会議(RC)	チリ国サンチアゴ市	600	20	無
2010年	国際地理学会議(RC)	イスラエル国テルアビ ブ市	500	20	無
2008年	国際地理学会議 (IGC)	チュニジア国チュニス 市	1240	60	無
2006年	国際地理学会議(RC)	オーストラリア国プリ スベン市	1200	50	無
2004年	国際地理学会議 (IGC)	英国グラスゴー市	2000	100	無

運営に関する会議の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催場所 (機関等)	参加国数	日本からの 代表者名	学術会議の 代表派遣数
2012年	IGU役員運営会議	ケルン	80	氷見山幸夫、 春山成子、 石川義孝	3
2011年	IGU役員運営会議	サンチアゴ	10	氷見山幸夫	1
2011年	IGU役員運営会議	ケルン	10	氷見山幸夫	0
2010年	IGU役員運営会議	北京	10	氷見山幸夫	0
2009年	IGU役員運営会議	テルアビブ	10	無	0
2008年	IGU総会	チュニス	80	岡部篤行、 氷見山幸夫	2

出版物等(主要な定期刊行物・不定期刊行物を刊行頻度とともに箇条書きで記載)

1. 定期的(年4回) 主な出版物: E-Newsletter

活動状況(各項目につき過去5年間の状況を120文字以内で記載)

<p style="text-align: center;">国際機関等の提唱で行った活動</p> <p>Future earth についての議論。IRDRとのジョイントによる防災への貢献。ICSUとISSCに代表派遣。国際惑星地球年 (IYPE, 2007-2009)の協賛団体として、その活動を支援。地中海ルネッサンスプロジェクト (MRP)を支援。Geoparkとlandslide Forum に代表を派遣。国際山岳年 (International Year of Mountains)の活動支援など。</p>
<p style="text-align: center;">国際機関等への提言等</p> <p>国際理解年 (IYGU)を国連に提案。ICSUにIGUのHazard and Risk committionがノミネートされた。</p>
<p style="text-align: center;">国際事業等への参加・実施等</p> <p>ICSUおよびISSCの古くからの加盟団体として、それらの活動およびそれらが主導するIGBPやIHDPなどのプログラムに深く関わってきた。IGU会長が国連大学副学長を務めたり、地理学者が国連大学学長を務めるなど、同大学とも関わりが深い。</p>
<p style="text-align: center;">全世界的/地域的研究課題への取組み</p> <p>分野の性格上、環境、文明、都市化、災害軽減、各種地域問題など多岐にわたる課題に取り組んでいるが、中でもIGBPおよびIHDPにおける貢献が大きい。ICSUの提唱するEarth System Science for Global Sustainability - The Grand Challenges の推進にも力を入れている。</p>
<p style="text-align: center;">発展途上国への対応</p> <p>国際地理学会議 (IGC, RC)への途上国からの若手研究者の参加を促進するため、旅費を補助。経済的に恵まれない発展途上国の教育研究機関に学術雑誌等は無償で送る運動を継続。</p>

関連学術分野の動向と今後の重要課題(120文字以内で記載)

<p>砂漠化、温暖化などの地球環境問題、過剰都市化、経済のグローバル化の負のインパクト、地域多様性の喪失などは、関連学術分野が英知を結集して取り組むべき重要課題である。これらの解決を図るには、諸学問を紡ぐ学際的な連携が必要である。さらにICSUのGrand challenge に関わる研究分野に関係諸分野からの提携。</p>

国内における国際学術団体への対応状況

国際学術団体の役員就任状況(過去10年間・新しいものから遡って5件まで記載)

国際学術団体における 役職名	氏名	任期	
		開始年	終了年
持続的農業地域システム研究委員会 会議長	金科哲	2012	2016
副会長	氷見山幸夫	2010	2014
日本代表	春山成子	2011	2014
災害とリスク研究委員会会議長	春山成子	2008	2016
副会長	田邊裕	2000	2008
日本代表	氷見山幸夫	2008	2011
水の持続可能性研究委員会副議長	森 和紀	2008	2012

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名 IGU分科会

学術会議以外の国内対応組織・委員会等

地理学連携機構、日本地理学会、人文地理学会

国内の関連学協会等の状況(主要なもの5件まで記載)

学協会の名称	会員数	学協会のホームページURL
地理学連携機構	12000	http://www.soc.nii.ac.jp/ajg/JOGS/
日本地理学会	3200	http://www.ajg.or.jp
地理情報システム学会	1700	http://www.gisa-japan.org/
人文地理学会	1400	http://www.soc.nii.ac.jp/hgeog.index-j.html
東京地学協会	750	http://www.geog.or.jp

学術会議の国際対応分科会(小委員会)の活動状況

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名	IGU分科会
所属分野別委員会	地球惑星科学委員会

分科会(小委員会)の構成

委員長	副委員長	幹事	
春山成子	石川義孝	井田仁康	

会員数	連携会員数	特任連携会員数
2	23	0

分科会(小委員会)の活動方針(箇条書きで120文字以内で記載)

1) IGUと連携した国際的・国内的な地理学・地理教育の普及と社会貢献, および他分野との協働, 2) IGSUが設置したIGBPやIHDPなどの国際研究計画への地理学サイドからの参加, 3) IGUへの役員などの推薦, 4) IGUが関係する国際会議などへの代表の派遣, 5) IGUが関係する国際会議などの日本への招致, 6) その他IGUの活動への協力, 支援, 助言, 日本からの参加促進に関する事項.

今期の会議開催状況(開催日時の新しいものから遡って6回まで記載)

会議開催日時 (2009/05/01の形式)	主な審議事項・議題等
2012/7/2	IGC2012ケルン会議での役割分担、IGU会長・副会長選挙権行使の検討、IGUの動静、地理オリンピックの準備状況/ IAG小委員会/ ICC小委員会/ KRC2013の準備状況確認/
2012/3/26	IGU会長、副会長を招待し、IGUの動静、ケルン会議、2012年の会長選挙・副会長選挙についての説明を受け日本の役割を確認/ケルン会議に向けた日本の地理オリンピックの準備状況/ IAG小委員会/ ICC小委員会/ KRC2013の準備状況確認/
2011/11/28	IGU第22期の委員長ほかの世話役の決定。IGUの動静について/IYGU(国際地球理解年)について/地理オリンピックについて/UGI2012ケルン本会議 について/2013年京都国際地理学会議について/IAG小委員会/ICA小委員会/東日本大震災について/ほか
2010/6/27	IGUの動静について/IYGU(国際地球理解年)について/地理オリンピックについて/UGI2011 Santiago について/2013年京都国際地理学会議について/IAG小委員会 /ICA小委員会/東日本大震災について/ほか
2010/5/10-13(メール会議)	IAG国際シンポジウム提案について
2010/9/24	IGUテルアビブ地域会議について/地理オリンピックについて/京都国際地理学会議組織委員会の設置について/IGU副会長候補の推薦について/IAG小委員会/ほか
2010/6/28	IGUテルアビブ地域会議について/地理教育分科会について/IGU京都地域会議組織委員会の設置について/IGU副会長候補の推薦について/IAG小委員会/ほか
2010/3/15	IGUテルアビブ地域会議について/ IGU京都地域会議について/地理オリンピックについて/地理教育分科会について/来年度の活動計画について/ほか

日本における国際学術団体の活動の周知・広報の状況(箇条書きで120文字以内で記述)

「地理関連学会連合」(25学会が加盟)、「人文・経済地理及び地域教育関連学会連携協議会」(22学会が加盟)および両者を束ねる「地理学連携機構」、「日本地球惑星科学連合」などのコンソーシアムと緊密な連携を図り、地理学の普及啓蒙活動を推進している。

国際対応における国内学協会との連携状況(箇条書きで120文字以内で記述)

IGU事務局から送付される文書は、地理学連携機構等を通じて関連諸学会にメールで伝達される体制が敷かれている。また、2013年京都国際地理学会議(RC)の開催に向けては、関連諸学会の協力を仰ぎ、オールジャパンの組織(組織委員会)をIGU分科会主導で構築し、万全の体制で準備を進めセカンドサークル準備を行った。

特記事項・国際委員会による指摘事項等への対応状況(箇条書きで120文字以内で記述)

IGUでの日本のプレゼンスを高めるようにと指摘があったが10月にIGU国内委員会委員長の氷見山幸夫がIGU副会長に選任された、国際地理オリンピックが日本科学オリンピックに認められた、2013年京都国際地理学会議(RC)組織委員会を発足させ諸外国への連携をとり大きな成果があった。

分科会・小委員会活動の自己評価等(箇条書きで120文字以内で記述)

* 2013年京都国際地理学会議(RC)組織委員会を発足させ、会議開催に向けて準備を本格化させている。
* 国際地理オリンピックを着実に発展させている。
* 関連諸学会と絶えず情報交換を行い、地理学の普及とIGU活動の推進に努めている。